

ニュース和歌山 2020 年 11 月 28 日号の 「おしえて！マイドクター Q&A」に掲載。

Q

くも膜下出血の頭痛って、どんな
感じなんですか？



《回答者》

◆脳神経外科

貴志川リハビリ
テーション病院
亀井 一郎院長

A

くも膜下出血は「イタッ!!」と叫んでしまうような、今までに経験したことがない激しい頭痛で発症します。

このような突発頭痛は、くも膜下出血を強く疑います。「ハンマーで殴られたような」とか「頭に雷が落ちた」と表現されることがあります。

くも膜下出血は、脳の血管にできた5ミリ〜10ミリくらいの脳動脈瘤という血豆状のふくらみが破裂して、一瞬のうちに脳の表面に出血がまわり、急激な症状を起こす病気です。当然、命にかかわる状況ですから、救急車で病院に搬送となります。ただし、全例が激しい頭痛で

発症するのではなく、中には軽い頭痛で起こることもあります。これは脳動脈瘤がちよつとだけ破れて、ちよつとだけ出血が起こる場合で、本発作の前兆と考えられています。前兆発作でもやはり、激痛ではないけれども、今までとは違う頭痛が突然起こり、それが数日続きます。頭痛が治まってきたら「治った」と思わず、必ず脳神経外科で治療を受けましょう。傷口が小さいほど治癒も良好です。

くも膜下出血は大変怖い病気には違いありませんが、治療が奏功すれば、完全に社会復帰できる病気でもあります。ちなみに、未破裂の脳動脈瘤は脳ドックで見えます。